

## 宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター 平成19年度活動報告

### 1. 目的と特徴

教育実践総合センターは、学内外の教育関係機関等との連携を図るための支援やコーディネートを行うとともに、教員養成のための教育実践及び教育臨床に関する理論的、実証的研究を行うことを目的としている。これらの機能の強化・充実と大学院・学部教育の改善や教育研究の質の向上・充実を図るため、平成17年度に教育学部に設置した「スクールサポートセンター」を平成19年度に「附属教育実践総合センター地域連携部門」として統合・再編した。本センターの3部門の教育・研究の目的と特徴は以下の通りである。

- ① 教育工学部門は、学習指導システムの改善をはかるため、教育メディアを活用した学習指導システムの開発研究、教育メディアや情報に関する教育実践活動、e-ラーニングシステムの構築・維持管理・利用支援などを行う。
- ② 教育臨床部門は、生徒指導、学級経営及び特別活動、野外教育等の問題について、基礎的な研究を行うとともに、実践的・事例的な研究を組織し、実践的指導力育成の支援を行う。また、学校現場で起こる子どもや教師の様々な心理学的問題（「不登校」「いじめ」「教師のストレス」など）に焦点を当て、教育心理学の手法を用いて、理論的・実証的・実践的な研究や活動を実施する。
- ③ 地域連携部門は、教育学部・教育学研究科の地域連携の窓口として、学校や地域の要請に応じて大学教員や学生を派遣し、学校や地域の教育活動を総合的に支援するとともに、地域支援と学部・大学院（附属学校園を含む）の教育・研究との融合・充実を図る。

### 2. 事業内容・実績

#### (1) 組織の構成

教育実践総合センターは、教育工学部門、教育臨床部門、地域連携部門の3部門からなる。

#### (2) 事業内容

##### ①教育工学部門

教育メディアを活用した学習指導システムの開発研究に関しては、コンピュータやネットワークなどのICTを活用した学習指導システムの構築、教育メディアの利用や教材コンテンツの開発研究などを行っている。教育メディアや情報に関する教育実践活動に関しては、情報教育や情報技術、情報教育特論などの授業をはじめ、教育実習生全員を対象とした教育機器と学習指導法の講習、教育実践に関する講演会、地域の学校のホームページ更新サポート事業などを実施している。e-ラーニングシステムの構築・維持管理・利用支援に関しては、学部にe-ラーニングシステムを構築し、システムの維持管理を行うと共に、学部教員や附属学校園教員を対象とした利用講習会の開催やヘルプデスクの開設などを行って利用を推進している。

##### ②教育臨床部門

地域の子どもや保護者を対象にした教育相談、現職教員を対象にした研究会やコンサルテーション、学生や現職教員を対象にした講習会・講演会などを実施しており、教育臨床の面からの地域貢献ならびに学生や現職教員の教育臨床能力の向上に関する事業を行っている。

##### ③地域連携部門

学生が県内の学校等の教育現場を体験し、実践的指導力を身につけるため、「学校等支援ボランティア」などの事業を推進している。このほか学校における放課後の学習支援、市町教育委員会が土曜日に行う教室の講師、特別支援教育の支援も行っている。また、教育学部が栃木県教育委員会などと連携して行う教職員研修や、校内授業研究の指導助言者の派遣など、教育学部・教育学研究科による地域連携の窓口事務の業務を担当している。

### 3. 平成19年度活動状況

#### a) 研究会・研修会

- 教育実践講演会（8月／教員及び一般／1回／150名）教育実践や学習指導方法の改善についての講演・シンポジウムを実施。
- 教育機器・情報機器利用講習会（4, 10月／研究生・教員／2回／延べ80～100名）コンピュータやネットワークを始めとする情報機器並びに教育機器の利用講習。
- 教育実習事前指導（教育機器と学習指導法講習会）（5, 6, 9月／教育実習予定者全員／9回, 各半日／200名）教育機器や情報機器を用いた教材作成と学習指導方法の演習を実施。
- 情報教育研究会（毎月1回／教員／年間12回／延べ70名）地域の情報関連教科の担当教師を対象として、学習指導の改善に関わる研究を実施。
- 教育実践インターンシップ事業（11, 12, 1月／学部学生／7回／5名）学校ホームページの更新サポート事業として、宇都宮市内の小・中学校12校に実施
- 教育近代化合同研究会（6, 2月／教員／2回／延べ15名予定）教育近代化による内地留学派遣教員並びに指導教員を中心として、栃木県教育総合センターと教育実践総合センター間の研究交流を図る。
- 生徒指導・特別活動公開研究会（12月, 3月／教員及び一般／2回／計50名）表記のテーマに関して講演会等を開催。
- 「野外教育」研究会（10～3月／教員及び社会教育関係者／2回／計24名）教員養成における野外活動のカリキュラムや指導方法に関して講演会等を開催し、児童生徒の野外活動及び大学等での野外教育の改善を図る。
- 生徒指導・特別活動研究会（4～3月／教員及び一般／20回程度／延べ120名）現職派遣研究生及び当該テーマに関心を持つ者（大学教員を含む）その他と実践的問題に関し、理論的、多面的に研究をする。
- 教育臨床学演習Ⅰ・Ⅱ（通年／週1回／学部生・院生／延べ4人）学校での心理的な問題についての情報交換、教師に必要なコミュニケーションのトレーニングを行うなど、教職に就く際に必要な心理的観点の修得を目的とした授業を開講した。
- 教育臨床心理研究会（06年5月～／月1回程度開催／現職教員／延べ60名程度）現職教員を主たる対象にして、子どもや教師の心理的側面について学び、教師の力量向上に寄与する演習などを実施した。
- 教育臨床学習会（08年2月9日ならびに2月23日開催／教育関係の学生・教員など／延べ60名程度を予定）第1回「不登校という状態の意味を考える」第2回「教師のメンタルヘルスを考える」のテーマで、外部講師を招いて講演会を実施する。

#### b) 附属学校園との共同研究プロジェクト

- 附属中学校におけるe-Learningによる学習指導の支援の試行に関する研究 附属学校園においてe-Learningシステムの効果的な利用に関する試行を実施する。

#### c) 学部・大学院教育への参与状況

##### （学部）

- ・「情報処理基礎」（61名, 演習, 前期, 1コマ, 30時間）
- ・「教育実習事前指導（教育機器と学習指導法）」（教育実習予定者全員229名, 演習, 前期, 9回, 各半日, 延べ40時間）
- ・「情報教育」（59名, 講義・演習, 2コマ, 60時間）
- ・「情報技術Ⅰ・Ⅱ」（17名, 演習, 2コマ, 60時間）
- ・「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ」（29名, 講義, 2コマ, 60時間）
- ・「情報技術演習Ⅰ・Ⅱ」（9名, 演習, 2コマ, 60時間）
- ・「総合学習の指導」（46名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間）

- ・「生活指導」(48名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「教育課程及び方法」(75名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「学級経営」(14名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「子どもと教育・探求講座」(28名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「教育学演習BI」(2名, 演習, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「教育学演習BII」(1名, 演習, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「教育相談(カウンセリングを含む)」(延べ31名, 前期・後期, 計2コマ, 60時間)
- ・「学校臨床心理学」(24名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「教育心理学演習I・II」(延べ13名, 演習, 前後期, 1コマ, 60時間)
- ・「教育臨床学演習I・II」(延べ6名, 演習, 前後期, 1コマ, 60時間)
- ・「教育原論」(160名, 講義, 前・後期計2コマ, 60時間)
- ・「道徳教育」(82名, 講義, 1コマ, 30時間)
- ・「日本教育思想史」(4名, 講義・演習, 1コマ, 30時間)
- ・「教育学演習AI」(7名, 演習, 1コマ, 30時間)
- ・「教育学演習AII」(7名, 演習, 1コマ, 30時間)
- ・「中等社会科教育法I」(42名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「中等社会科教育法IV」(52名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「公民科教育法」(35名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「社会科教育特講A」(10名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「環境と社会」(36名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)

#### (大学院)

- ・「情報教育特論」(9名, 講義, 前期, 休日開講, 1コマ, 30時間)
- ・「教材開発評価演習(教育学・情報系モジュール開発)」(1名, 演習, 後期休日開講, 1コマ, 30時間)
- ・「カリキュラム開発演習A」(11名, 演習, 前期, 夜間開講, 1コマ, 30時間)
- ・「比較カリキュラム特論」(4名, 講義・演習, 後期, 第2, 第4土曜午前開講, 1コマ, 30時間)
- ・「カリキュラム開発特別研究I・II」(8名, 演習, 不定時間, 60時間)
- ・修論指導(随時)
- ・「学校臨床心理学特論I・II」(延べ12名, 講義, 前後期, 1コマ, 60時間)
- ・「学校教育特別研究」(6名, 5単位, 通年適時開講)
- ・「日本教育史演習」(15名, 演習, 1コマ, 60時間)
- ・「道徳教育特論」(12名, 講義, 1コマ, 30時間)
- ・「日本教育史特論I・II」(12名, 講義, 前・後期計2コマ, 60時間)
- ・「カリキュラム構成特論」(3名, 講義, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「教科教授・学習特論」(4名, 講義, 後期, 1コマ, 30時間)
- ・「教材開発評価演習(システム・環境系モジュール開発)」(3名, 演習, 前期, 1コマ, 30時間)
- ・「教材開発評価演習(複合・総合系モジュール開発)」(2名, 演習, 前期, 1コマ, 30時間)

#### d) その他

○e-Learning システムを用いた教育学部学生・院生向け授業の試行(約30科目, センター専任含む学部教員4名により実施)

○内地研究生の受け入れ・研究指導(現職教員9名/各半年)

※遠藤 前期2名 後期2名 川島 後期1名 渡邊 前期2名 後期1名, 松本 前期1名 計9名

○教育用ソフトウェアの開発・評価プロジェクトの実施(1件/教育の現場と共同研究)

○e-Learning システムの管理・運用と利用支援

○教育情報データベース、ビデオ・教育用ソフトウェアライブラリの保全と利用支援

○教育実践総合センター紀要の発行（30号／平成19年7月／年1回／掲載論文・報告61編）

○センターニュースの発行（各年1回）

○センター要覧の発行（隔年1回）

#### 4. 対外的な教育・研究活動状況

a) 都道府県／市町村／公立学校との協同事業による研究会・研修会

○栃木県教育職員免許法認定講習

石川・川島「情報教育」（8月／教員／年1回／2日間／延べ50名）

遠藤 「教科外活動論」（8月／教員／年1回／2日間／60名）遠藤先生

○教職員サマーセミナー（公立学校等教職員を対象として開催。宇都宮大学と県教委による共催）

石川・川島「情報メディアの活用と学習指導」（8月／教員／年1回／1日間／13名）

川原 「教育心理学研究の基礎の基礎—教育心理学を活かした研究をしたい人のために—（8月／教員／年1回／1日間／24名）

松本 「校内授業研究を中心とした学校改善」（8月／教員／年1回／1日間／18名）

松本他 「楽しい道徳の授業の工夫」（8月／教員／年1回／1日間／24名）

松本他 「生涯学習の視点に立った学校教育の在り方」（8月／教員／年1回／1日間／24名）

○教育委員会や小・中学校教育研究会・学校等と連携した研究会・研修会

・学習指導法やITの活用に関する研究・助言／教員／宇都宮市教育センター3回

・平成19年度栃高教研視聴覚部会総会・研究大会（5月）

・平成19年度情報教育実践研修（小・中合同）（5月）

・下都賀地区教務主任研修会，下都賀地区教務主任（6月）

・下都賀地区中教研特活部会研修会（6月）

・栄養教諭育成講習会「生徒指導」「情報教育」「教職概論」（8月）

・栃木県中学校教育研究会社会部会研究大会（8月）

・栃小教研佐野支部情報メディア教育部会（8月）

・芳賀地区教育課程研究会，芳賀地区教員（8月）

・南那須・塩谷地区教育課程研究会，南那須・塩谷地区教員（8月）

・下都賀地区中学校教育研究会社会部会研究会（10月）

・宇都宮市教育委員会・宇都宮大学教育学部連絡協議会運営委員会，大学教員・市職員（11月）

・さくら市立押上小学校道徳教育研究大会，栃木県内教員（9月）

・大田原市立石上小学校人権教育研究会，那須地区教員（9月～12月）

・平成19年度情報モラル指導者研修（11月）

・那須塩原市立大山小学校道徳教育研修会，那須地区道徳部会教員（11月～12月）

・那須地区中学校教育研究会社会部会研究会（12月）

○宇都宮市と宇都宮大学との連携協議会（学部教員，宇都宮市教育委員会／年6回／約40名）／概要：宇都宮市と大学との間で共同で教育・研究を推進するための連携協議会

○栃木県教育研究発表大会の共催（1月下旬／教員、社会教育関係者及び一般／年1回／2日間、延べ1500名）／概要：県内の大学・学校・園、教育研究所及び社会教育団体等の教職員の研究発表の場

○宇都宮大学教育学部の地域連携事業の推進（随時／対象：栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会、栃木市教育委員会、那須塩原市教育委員会、那須町教育委員会）／概要：栃木県教育委員会委託研修の拡大、教職員サマーセミナー運営、今後の現職教員研修への参画

・宇都宮市教育委員会・宇都宮大学教育学部連絡協議会運営委員会，大学教員・市職員（11月）

- ・さくら市立押上小学校道徳教育研究大会，栃木県内教員(9月)
- ・大田原市立石上小学校人権教育研究会，那須地区教員(9月～12月)
- ・那須塩原市立大山小学校道徳教育研修会，那須地区道徳部会教員(11月～12月)
- ・栃教県連塩那須三地区役員研修会(1月)
- ・那須塩原市教委との学力向上連携事業，市内6小中学校，通年
- ・栃木市教委との連携による学力向上指定校研究会，栃木第三小・栃木東中，通年
- ・宇都宮市教育センターとの連携による校内研修サポート事業，若松原中，通年
- ・研究開発学校運営指導委員(栃木市立皆川城東小・皆川中)，通年

○とちぎ・リハビリテーション・センター職員研修会(1月/年1回/概要：日本の学校の良さを見直す)

○教育臨床に関する講演会(7月、10月、11月/3回/「小学校PTA」「幼稚園教諭対象保育セオリー講座」「生徒指導担当教員」/概要：子育てや生徒指導に関する教育臨床的観点)

## b)その他

### ○審議委員等

- ・平成19年度栃木県産業教育審議会委員
- ・平成19年度宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会委員
- ・宇都宮市教育委員会・宇都宮大学教育学部連携協議会部会長及び委員(全教員)
- ・日本教育工学協会理事
- ・栃木県教育委員会教員審査委員会委員
- ・栃木県教育委員会社会教育委員(議長)(第26期～第29期)
- ・栃木県総合教育センター協議会委員(会長)(平成17年度～19年度)
- ・栃木県公私立学校協議会委員
- ・宇都宮市青少年問題協議会委員
- ・宇都宮市社会教育委員
- ・宇都宮市立冒険活動センター運営協議会委員
- ・財団法人とちぎ青少年こども財団理事
- ・日本特別活動学会会長(平成18～21年度)
- ・関東教育学会常任理事
- ・栃木県生涯学習審議会委員(会長)
- ・栃木県定時制高等学校協議会委員(委員長)
- ・栃木県連合教育会・言語力育成研究部会(委員長)
- ・栃木県教育研究所・栃木県国際教育研究所運営委員会委員(委員)
- ・栃木県総合教育センター協議会委員(委員)
- ・宇都宮市宮っ子の誓い制定懇談会(副会長)
- ・栃木市教育研究所(所長)
- ・栃木県教科用図書選定審議会委員(会長)
- ・那須烏山市教育特区推進会議委員
- ・那須烏山市サタダースクール運営委員(松本，岸野)
- ・教育実践研究関連センター協議会教育学・情報教育部門担当理事

○教育相談活動(延べ80回程度/約4名)子どもや保護者の相談を定時または不定時に行った。

○学校への訪問・コンサルテーション(延べ8回程度/対象者は6名程度)教育相談活動の子どもの学校復帰支援、現職教員の力量向上の相談、附属幼稚園の研究に関する助言等を行った。

○平成19年度ホームページコンテストの主催(年1回、1月)宇都宮市小・中学校教育研究会と連携し、情報モラルの育成をねらいとしたコンテストを実施した。

## 5. 外部資金導入状況

助成金名称	研究題目	本年度金額	研究期間	研究代表者
a) 学長裁量経費	授業改善を図るe-ラーニング用コンテンツの開発促進事業	33.9万円	平成19年度	鈴木 勲
b) 文科省科学研究費補助金	Web型教材コンテンツの学習支援機能や着想の系統化と実証授業による学習効果の評価	273万円	平成19年度～22年度	石川 賢
c) 文科省科学研究費補助金	リアルタイムでの習熟度別グループ学習を支援するネットワーク型教材の開発と評価	50万円	平成17年度～20年度	川島芳昭
d) 特別教育研究経費(運営費交付金)	事業名称：学校現場の問題解決をとおして教育学部・教育学研究科のカリキュラム改革と授業改善	602.4万円	平成19年度	松本 敏
e) 特別教育研究経費 大学負担経費	上記事業(e)実施に伴う学内助成経費	300万円	平成19年度	松本 敏

## 6. 将来構想

中期目標に基づいた事業・研究を構想している。